

平成25年度 宮崎県立高鍋高等学校 自己評価書

平成26年3月20日

◎右記の評価基準により評価する。4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する
◎1ページ目の学校の重点目標4項目に関する評価は、2ページ以降の、各業務分掌等の関係項目の評価値を平均したものである。

教育目標 「文武両道」「師弟同行」「身心學道」「真善美」「集中・機敏・奉仕」の伝統的教育理念を根幹に据え、知を学び、徳を学び、心身の鍛錬に努め、社会に貢献する生徒の育成を目指す教育を推進することにより、保護者や地域の信頼、期待、ニーズ等に応えられる学校を構築する。

学校経営ビジョン 「生徒の可能性を最大限に伸ばす高鍋高校」「保護者や地域に信頼される高鍋高校」を学校スローガンとして、全教職員で一丸となって（各部、各学年等でもスローガン作成）取り組む。

重点目標	目標到達のための手段(○数字は本年度特に重点的に取り組むもの)	評価	総括 (○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)	学校関係者による評価
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)	① キャリア教育の充実を図り、進路目標を明確にさせる。 ② 授業研究、教科研修会の充実や「生徒による授業評価」の活用等により、教師が授業力を磨く。 ③ 学力向上につながる自宅学習の時間を増やす工夫をする。 ④ 学力に応じた少人数指導・習熟度別指導を導入し、基礎的・基本的事項の定着並びに上位層対策を行う。 ⑤ 読書指導、小論文指導、資格取得指導を計画的に実施する。 ⑥ 学力検討会を充実させる。(分析・対策) ⑦ 高大連携を推進する。	3.1	○他教科の授業参観も含めて計画的に行い、授業力向上に努めた。 ○放課後の課外を講座制に変更し実施したので個別指導の時間確保や放課後の有効活用ができた。 ○1, 2年生のキャリア教育の訪問先については、昨年度の反省をもとによりよい訪問先を選定した。次年度に向け生徒の主体性を重視したものに改善していく。 ○本年度から開設された探究科学コースでは、様々な行事を通して興味関心を喚起した結果、英検を全員が受験し、4.3名中2級に2名、準2級に3.2名が合格した。 ●学力差が大きくなってきているので類型の改善がなされた。今後は類型に応じた授業の研修が必要である。	3.1
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)	① 挨拶、時間厳守、服装・容儀など基本的生活習慣の確立を図ると共に、自主性・積極性を養う。 ② 「師弟同行」「集中・機敏・奉仕」の理念のもと環境美化意識の啓発に努める。 ③ 小中高連携、地域社会との連携による社会体験活動を計画的に実施する。 ④ 道徳教育、人権教育、特別支援教育、教育相談の充実を図り、心の教育を推進する。 ⑤ いじめ問題については、日頃からの生徒理解、未然防止や実態把握に努め、情報を共有して組織的に取り組む。	3.2	○挨拶、服装、容儀等は概ね確立しており、また、遅刻等も少なく、全体的に品性ある落ち着いた学校生活が送れた。校外から交通マナーやモラル面、学友団活動と様々な場面で良い評価を受けた。 ○教育相談を中心に、学級別教科担任会を開催し、個々の問題に対して速やかに対応できた。今後も継続していきたい。 ○いじめ問題についても複数回のアンケート調査を実施し、その都度個々の案件について対応策を協議して行った。 ○1年生は、入学当初にいじめについて紙上討論会を実施した。生徒の人権に対する意識の向上が見られた。次年度以降も実施する。 ●インターシップについては、生活情報科と普通科の総合に於いて実施した。実施時期等の問題があり、次年度は生活情報科のみの実施となる。	3.3
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)	1 部活動への参加を促進し、内容の充実に努め、活動実績の向上を図る。 2 「文武両道」実現のために、全職員共通理解のもとに、部活動の活動時間を厳守する。(自宅学習時間の確保) 3 学校行事への積極的な参加を推進する。 4 食育と健康安全教育の推進を図る。(「弁当の日」の推進)	3.2	○生徒会を中心に、生徒が主体的に学校行事等を企画・運営し、成功させた。 ○中学生には、探究科学コースでも部活動が可能であることを周知した ○教育相談週間に相談を希望した生徒は、面談ができて安心したようだ。また、相談室登校をしていた生徒も教室に復帰することができた。 ●部活動と家庭学習の両立については未だ不十分である。部活動の活動時間や学習との両立については今後の課題である。	3
4 保護者や地域に信頼される学校	1 学校公開(一般向け)とオープンスクール(中学生向け)の工夫改善を図る。 ② 積極的に小中学校を訪問し、本校をアピールする。 3 保護者に対して、行事への参加を積極的に促す。 ④ ホームページの随時更新と広報誌・パンフレット・ポスター・ゲートボードを充実する。 5 中高連携を推進する。	3.4	○生徒を中心にしたオープンスクールや学校公開は高い評価を得た。 ○広報部の努力でHPを毎日更新し、日々のアクセス数は300を超えた。 ○中学3年生を本校に招いて、学習会(数学、英語)を実施した。1回目8.8名、2回目13.0名の中学生の参加があり、中学生の評価も高かった。 ○出前講座(作文)を中学校で実施し、中高連携を推進した。 ●生徒の学力の多様化に伴い類型ごとの定期考査について検討する必要がある。	3

評価方法 各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する

重点項目との関連性	教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)	○	○	○	○			○		○	○	○	○	○
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)		○		○	○	○			○	○	○	○	○
4 保護者や地域に信頼される学校	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する													
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科	
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)		○		○	○			○		○	○	○	○	○	
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)			○		○	○	○				○	○	○	○	
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	
分掌学年	重点目標との関連	評価項目(目標)	評価指標・数値目標(手段・ゴールイメージ)		方策・手立て(具体的取り組み)			前期評価	中期評価	後期評価	総括	10月までの成果と課題(○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)※未実施項目については、評価しなくて良い。			
教務部	1	1. 教科指導力の向上	1. 研究授業参観率の向上 2. 「生徒による授業評価」の早期実施と平均値を高める。 3. 自習時間を減らす。		1. 他教科からの参観を呼びかけると同時に、実施者の検討会の充実を図る。 2. 生徒の学力向上との関連性を検討し、企画・提案する。 3. 特編・振替等での対応を図る。			3	3	3	3.0	○他教科の授業参観については、時間的に厳しいものがあるが、計画的に実施できた。 ○特編は前もって調査を行い、可能な限り自習がでないように対応できた。 ○各教科のシラバスの確認、評価の統一など共通理解に向けて検討している段階である。評価については、継続的に検討していく。 ●研究授業のみで終わらず、事後の研究会の時間の確保やその後の授業に生かす必要がある。 ●出張などの自習の振替は合同・合併・習熟などの関係で厳しかった。 △生徒の学力レベルに差が広がっているため、先生方の意思の統一を図るため、今後は教科を超えた研修等が必要である。			
	2	2. 基礎基本の定着	1. 自宅学習時間の増加を目指す。 2. 定期考査の円滑な実施と欠点保有者の減少を目指す。		1. 教科からの要求学習量の調査及び検証。部活動間の比較を行う。 2. 定期考査終了後の反省文の充実・特別指導の徹底を図るとともに事前指導にも取り組んでいく。			3	2.7	3	3.0	○宅習調査・塾調査・学校公開アンケートなど検証すべき事項が揃ってきたので、今後は具体的に提示できるように検証していく。 ○1学期中間テスト後に欠点者に反省用紙を書かせ、意識付け等を行えた。2学期の中間テストについても、実施し、生徒の意識の改善に努めた。 ●自宅学習時間が科・コースによって大きく異なりバランスをどのようにとっていくか課題である。 ●部活動については土日の練習時間など、全体的に検討しなければ自宅学習時間の増加は見込めない。特に家庭での学習を阻害する要因が多い現在、目標に到達できる内容を本人・保護者に理解してもらう手立てが必要である。 ●2学期中間テストは例年と同程度の欠点者が出ており、意識の改善は図れていない。期末テストについては、2・3年生は減少している。			
	4	3. 校内外の学校活動推進	1. 校内の諸活動の充実を図る。 2. 「オープンスクール」の中学生満足度80%以上 3. 「学校公開」の参加人数300人以上を目指す。 4. 保護者への情報発信を行う。		1. 諸儀式・テスト関係・コース登録・教育実習の円滑化・奨学金等をスムーズに行う。 2. 講座・説明内容の更なる工夫を行い、保護者に向けての説明も充実させる。 3. 年2回実施し、保護者、地域の小中学校への働きかけを行う。 4. 担任・学年・教務通信等で情報を発信していく。月2回程度。			3.5	3.8	4	4.0	○教科書や奨学金関係については、詳細の提示等、変更等があったが大変であったが、柔軟に対応することができた。 ○「第1回学校公開」に関しては、多くの先生・生徒の協力を得て、よい流れで実施できた。第2回についても先日、実施した。概ねよい評価をいただいている。 ○オープンスクールはオープニングから中学生を惹きつけるものになり、多くの参加者とアンケートにおいても満足度の高いものになっていた。 ○「くすのき」通信で学校全体に同じ情報が流れるので共通の理解が得られた。 ●定期テスト中の取り組みに問題のある生徒もおり、テストの午後の活用も含め、指導が必要である。 △コース登録については、各コースの在り方について、次年度も検討が必要である。			
	1	4. 新教育課程に対するカリキュラムの作成	1. 生徒の実態に応じたカリキュラムの編成を目指す。		1. 教科代表者会・改善提案委員会等を中心に本校に適したカリキュラムを今年度も継続的に検討していく。			2.5	2.8	3	3.0	●減単も含め、今の状況を変えたいという思いはあるが、組織全体として変えることは難しい状況にある。 ●類型も細くなり、選択教科等が増えたため、時間割作成、成績処理等も大変になっている。 △「探究科学コース」の強みと弱みをしっかりと把握し、今後どのように展開していくのか、体制も含めて検証していかなければならない。 △シラバスの形は完成したが、学習評価も含め、次年度も継続して審議する必要がある。			

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する															
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科			
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)		○		○	○			○		○	○	○	○	○			
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)					○	○	○				○	○	○	○			
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○			
分掌学年	重点目標との関連	評価項目(目標)	評価指標・数値目標(手段・ゴールイメージ)					方策・手立て(具体的取り組み)			前期評価	中期評価	後期評価	総括	10月までの成果と課題(○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)※未実施項目については、評価しなくて良い。		
生徒指導部	2	1. 基本的生活習慣の確立と問題行動未然防止	1. 挨拶の飛び交う学校を目指す 2. 遅刻する生徒がいない学校を目指す 3. 正姿を充実させ落ち着いた雰囲気での学習に取り組めるようする 4. 考査期間に行われる服装容儀検査での違反生徒ゼロを目指す 5. 問題行動年間ゼロを目指す					1. 各学年と協力し正門・靴箱での遅刻指導を行う。また、各種委員会活動の中で挨拶運動や遅刻指導を実施する。 2. 正副担任と協力して正姿の指導を徹底する。 3. 各定期考査での服装容儀検査を実施する。 4. 学年主任や教育相談との連携を取るための会議を実施する。また適宜学年集会を実施する。 5. 放課後の下校指導を先生方と協力して行う。					3.2	3.4	3.4	3.3	○各学年の協力により靴箱での遅刻指導を行った結果、顕著にその成果が現れている。 ○生徒会執行部が毎朝正門での挨拶運動を行ったため、挨拶の飛び交う学校作りに貢献できた。 ○定期的な服装容儀指導と先生方の常時指導により、違反する生徒がきわめて少ない。 ●各学年主任との連携を取るための対策を今後検討していく必要がある。 ●2学期以降に問題行動が発生したので、学年との連携を強化していき、集会等の充実を図る必要がある。
	4	2. 生徒が主体的に取り組む委員会活動・鳴海ヶ丘祭の充実	1. 在校生の大半が満足する鳴海ヶ丘祭 2. 鳴祭実行委員会組織を充実させ、生徒会執行部と連携を取り、生徒自ら作り上げる鳴海ヶ丘祭にしていく。 3. 各種委員会の委員長を中心に委員会活動の計画・立案させて自主的な活動を促す。					1. 修館館高校文化祭視察を参考に高鍋高校独自の文化祭を作り上げる。 2. 全校生徒が文化祭に参加できる企画を考える。 3. 定例生徒会委員会を充実させ各委員会活動を積極的に取り組ませる。					3.4	3.6	3.6	3.6	○突然の日程変更にもかかわらず、実行委員会の組織が充実していたため満足のいく鳴海ヶ丘祭となった。 ●鳴海ヶ丘祭の内容を更に充実させるために新たな取組も発案していく必要がある。 ○交通安全委員会が駐輪場での鍵かけの呼びかけをし、無施錠調査を行ったため無施錠駐輪の自転車がほとんどなくなった。 ○全校集会の時に各委員会の委員長が活動内容を全校生徒の前で発表することで各委員会の取組を明確化できた。 ●自主的な取組が見られるようになったが、まだ十分とは言えないので今後の定例委員会を更に充実させていきたい。
	3	3. 部活動の充実と学習との両立	1. 部活動生の入部率8割以上 2. 部活動生の定期考査での欠点保有者(3科目以上)をゼロにする。 3. 部活動生の平日の学習時間確保のため始まるの時間と終了時間の厳守。					1. 生徒会を中心に新入生に対する部活動紹介を充実させる。 2. 部活動生集会を各学期1回は実施し意識向上に努める。 3. 教務が行う家庭学習調査から部活動生の日ごろの学習状況を把握する。 4. 派遣委員会で欠点保有者の対策をしっかりと検討していく。 5. 部活動生の下校時刻厳守のために先生方の協力を得て下校指導を行う。					3.2	3.2	3.2	3.2	○新入生に向けての部活動紹介は生徒中心のすばらしい紹介であった。 ○部活動生集会を充実した集会にできている。部活動生の意識改革につながっている。 ●部活動生の家庭学習状況の把握ができていない。 ●部活動生の活動時間の確保と下校時間の厳守を検討する必要がある。
	4	4. 礼儀指導の充実を回り社会的モラルやマナーの育成	1. 校内だけでなく校外での挨拶・マナーの向上を目指す。 2. 公共交通機関からの苦情ゼロ。地域住民からの苦情ゼロを目指す。 3. 警察との連携を図り、交通違反者をなくす。 4. 地域住民から信頼される生徒の育成を目指す。					1. 朝の立ち番や、定期考査中の全職員による立ち番指導により、日ごろからの挨拶の徹底を図る。 2. 新入生オリエンテーション時に礼法指導を行うことで高鍋高校生として礼儀を身につけさせる。 3. 駅周辺の見回りをしたり、放課後の見回りを実施する。 4. 苦情の電話があったり、お褒めの電話等が外部からあったら、直ぐに全校集会・学年集会やSHRで生徒に知らせ、周知徹底させる。 5. 警察とPTAとの連携を図り、下校指導を行う。					3.2	3.5	3.5	3.6	○校外からの苦情が減ってきている。また、交通マナーやモラルの面でお褒めの言葉をいただいた。 ○PTA・警察と協力して下校指導を行った。 ○校外からの苦情に対応して、登校時の通学路を変更したが生徒は遵守している。 ○高鍋地区の中学校の先生や自治会の方々から高鍋高校生の挨拶が良いと褒められた。 ○駅のホームで年配の方や困っている人を手助けした生徒がいて感謝の電話を頂いた。 ●地域社会に信頼される高鍋高校生を目指すために、ボランティア活動等地域に貢献できる活動を実施していく。
	4	5. 施錠・校内巡回の徹底による盗難防止	1. 各クラスの施錠係の施錠の徹底 2. 自転車盗難防止のための二重ロックの徹底 3. 盗難(自転車も含む)ゼロを目指す。 4. 校内駐輪場での無施錠自転車ゼロを目指す。					1. 各クラスの施錠係りの鍵の管理を担任の先生方を中心に行う。 2. 各クラスの交通安全委員に各クラスの施錠状況調査を実施する。また、施錠呼びかけを駐輪場で実施する。 3. 警察と連携を取り、校外における無施錠防止のための取り組みに協力する。(思いやりロック) 4. 校内の無施錠の自転車の調査を警察と連携を取り、無施錠の自転車の生徒の指導を徹底していく。					2.8	3.4	3.4	3.5	○交通委員会と先生方の協力によって、鍵かけの呼びかけや無施錠調査を実施したため11月の施錠率が100%であった。 ○自転車の施錠率が児湯地区の高校内でトップであり、高鍋警察署長から表彰を受けた。 ○移動教室の際の施錠が徹底されているのと、日頃からの意識付けにより校内における盗難がない。

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する												
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)		○		○	○			○		○	○	○	○	○
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)			○		○		○					○	○	○
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○
分掌学年	重点目標との関連	評価項目(目標)	評価指標・数値目標(手段・ゴールイメージ)		方策・手立て(具体的取り組み)			前期評価	中期評価	後期評価	総括	10月までの成果と課題(○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)※未実施項目については、評価しなくて良い。		
進路部	1	1. 進路実現のための学力保障	1. 基礎学力の定着 2. 低学年次からの難関大学対策指導 3. 自学学習の充実と、時間の確保		1. 基礎学力養成講座の充実 2. 難関大学対策講座、個別指導の充実 3. 自学学習会の計画及び実施			3	3	3	3.2	○基礎学力をつけるための手立ての工夫(1年) ○夕課外を講座制に変更し実施。昨年度までは夕課外の後に難関講座を実施していた。個別指導の時間確保や放課後の有効活用ができています。(3年)●主体的な自学自習態度の育成が不十分である。基礎学力の定着のために、授業の工夫や、計画的な課題の作成を行っている。 ○中学生学力アップセミナーを8月と11月に実施し、中高連携を図るとともに、お互いの学力向上に繋げる。		
	4	2. 大学・短大合格者の増加	1. 課外、土曜講座の充実 2. 大学個別学力試験対策 3. 推薦入試の研究及び、早期対策 4. 受験における小論文及び面接指導の体系化 5. 国公立大学50名合格		1. 進路希望に合わせた指導の研究 2. センター試験及び主な国公立大学前期入試問題研究 3. 職員による大学視察、推薦希望生集会等の実施 4. 礼法指導の早期実施。体系的な指導の確立			3	3	3	2.9	○朝課外は遅刻なども少ない。各学年とも遅刻指導をして頂いている。朝早くからの指導に感謝したい。 ○3学年職員を中心に大学説明会に参加した。参加後は、復命書を回覧し、情報の共有を図っている。 ○推薦入試は、推薦委員会を前倒し予定。早期からの2者面談に取り組んでもらっている。(3年) ●体系的な指導体制に、まだまだ改善の余地がある～進学関係の礼法指導の実施。進路指導の時間の確保等。 ●推薦入試の組織的な指導体制が必要。合格率50%を目指したい。		
	1	3. 専門学校進学希望者への対応	1. 医療看護系の早期対策 2. 多様な進路先への対応		1. 推薦入試などの受験対策 2. 進路情報の共有化を図る。			4	4	4	4.0	○学力評定が進路に関わるという指導をしている。(1年) ○看護系は病院奨学金を含めた、早期の受験校決定を行っている。専門学校については、認可、未認可の問題等、生徒任せにせず、積極的に教師側の指導が必要の場合がある。(3年)		
	1	4. 就職指導の充実	1. 各進路説明会の開催及び参加 2. 新規企業の開拓 3. 就職率100%		1. 就職後の定着指導 2. 新規開拓企業の積極的な訪問、面接小論文対策			3	2	3	3.0	○公務員ガイダンス(5/16)、自衛隊ガイダンス(6/27)、就職希望者に対するマナー指導(6/20)、児湯地区合同進路ガイダンス(7/4)など、計画的に実施できた。(3年) ○6/13の3学年進路講演会では、公務員、自衛隊、民間就職を保護者及び生徒向けに実施した。 ○新規開拓は、進路対策専門員による企業訪問により、地元を中心とした求人が増えた。 ○就職内定率100%達成。●第1希望の企業への就職を目指したい。 ●関東地方の昨年度就職者に対する定着指導では、卒業2年目の2名が離職していた。		
	2	5. キャリア教育を中心とした進路指導の充実	1. 面談指導の充実 2. 進路講演会、進路ガイダンスの実施 3. 出前講座の実施 4. 高鍋わくわく講座(PTA職業講座) 5. インターンシップの実施 6. オープンキャンパスへの参加 7. 大手企業への訪問		1. 礼法指導講演会の実施。体系的な指導の確立 2. 外部仲介業者の有効活用 3. 大学との連携強化 4. PTAと連携して実施していく。 5. 2年の生情科と総合コースの生徒を対象に実施する。 6. 1年次にコンソーシアム宮崎、2年次に志望校に訪問 7. 2学年次の修学旅行を利用した企業訪問等			3	3	3	3.0	○探究科学コースはサイエンスツアーを実施。生徒、担当職員からも評判が良かった夏には、オープンキャンパス(宮大)、学習合宿を実施し、難関大学への意識付けをさせた。 ○9月に1、2年向けの進路講演会(北予備大山先生)、3年学習合宿(9/14、15)を実施した。 ○昨年度より、1年生で県内企業・大学視察、12月は地域学習を実施予定。2年次は修学旅行での大企業訪問 ●インターンシップについては、中学生と同時期に同じ内容になる問題がある。参加した生徒はよく頑張っていた。		

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する												
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)		○		○	○			○		○	○	○	○	○
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)						○	○				○	○	○	○
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○		○	○	○	○
分掌学年	重点目標との関連	評価項目(目標)	評価指標・数値目標(手段・ゴールイメージ)	方策・手立て(具体的取り組み)			前期評価	中期評価	後期評価	総括	10月までの成果と課題(○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)※未実施項目については、評価しなくて良い。			
図書部	1	1. 読書指導の充実	1. 新刊図書や視聴覚教材などの積極的購入と紹介をおこなう 2. 様々な生徒への働きかけにより、貸出冊数の前年比10%増以上をめざす	1・図書職員による購入図書選定に加え、職員・生徒からの購入希望調査を実施し、確実に予算執行を行う。 ・生徒図書委員による店頭購入を実施する ・新刊案内とライブラリー通信を発行する 2・朝の読書の時間や諸集会等を利用した本の紹介や、「明倫」の時間と運動させた特設コーナーの設置など、タイムリーな本の情報発信を行う	3	3	3	3.0	○読書旬間に合わせ生徒の購入希望図書を調査し購入した。また、図書委員を宮崎市内の書店に引率し店頭購入を行った。 ○新刊案内(図書部職員作成)、ライブラリー通信(図書委員作成)ともに毎月発行した。こうした取り組みの結果、昨年度比+10%以上の貸出冊数を達成した。 ●朝の読書の時間や集会を利用した本の紹介は行えなかった。「明倫」の時間との運動も十分ではなかった。					
	2	2. 生徒図書委員活動の充実	1. カウンター業務など日常業務を確実にこなわせる 2. 読書旬間や学校祭などにおける活動を工夫させ、来館者や貸出冊数の増加につなげる	1・カウンター業務やライブラリー通信発行の当番制を実施させる ・館内清掃や図書整理を徹底させる 2・読書旬間の企画検討・準備等を徹底させる ・学校祭における古本バザーの開催と益金の寄付をおこなわせる ・読み聞かせ、読書会、写真展などの新企画を考案・実施させる	3	3	3	3.0	○図書委員会生徒によるカウンター業務やライブラリー通信の発行、読書旬間に向けてのポスター作成といった活動が自主的に行われた。館内清掃や図書整理も問題なく行われた。学校祭における古本バザーは、図書委員の自主的な活動の結果盛況であった。 ●読み聞かせ、読書会、写真展は実施できなかった。					
	3	3. 館内の環境整備の充実	1. 来館しやすい空間を作ることで、来館者や貸出冊数の増加につなげる	1・机配列や新刊配架の定期的な見直しをはかる ・美術との連携による生徒絵画等の展示をおこなう ・暖房器具の購入により、冬季の寒さ対策をおこなう	3	3	3	3.0	○新刊は定期的に配荷しており、その都度工夫した配架を行っている。また図書委員がポップ(本の紹介カード)を作成し、内容が分かりやすい配架を心がけている。 ●生徒絵画の展示は現在実施に向けて準備している。 ○生徒用の暖房器具を1台増設した(石油ストーブ)					
保健環境部	2	1. 「師弟同行」「集中・機敏・奉仕」の理念による環境美化意識の啓発	1. 2分前予鈴による清掃活動を行う。「師弟同行」により気付き心を育む。 2. ゴミ分別100%を達成する。ゴミ減量化に取り組む。 3. 美化・緑化・保健委員会活動を活性化し、生徒の美化意識を広げ、学校を住みよい環境にする。	1. 共に活動する清掃の機会を利用し、師弟のコミュニケーションをはかる。 2. 全職員のゴミ分別体験(清掃時間)を一学期に実施し、実態を把握する。 3. 一年生の適応指導時に、ゴミ分別指導を行う。 4. 花壇・美化コンクールを毎学期実施し、緑化委員や一般生徒の美化意識の高揚をはかる。	2.9	3	3.2	3.0	○事務部の協力で清掃用具の整備ができてよかった。 ○全職員のゴミ分別体験を6/10～7/12に実施し、本校ゴミ分別状況を知っていただけた。 ●弁当やペットボトルが時期的に多いときもあるので、日頃からの生徒の観察が必要。 ○清掃のとりかかりが遅いため、美化委員会で作成したポスターを校内に貼り、美化意識を喚起した。生徒の把握のために、清掃区域が変更になるたび「掃除場所報告シート」を担任から監督の先生に渡していただいた。また、職員室等で古紙や分別の管理を先生方が率先して行って下さることで、担当生徒やゴミステーションでも正の連鎖が起こり、非常に古紙の保管状態が今年は良く、古紙業者からの苦情はきていない。 ●○あまり使用されない階段や、廊下の隅に、せつかく集めたゴミが残っていることがある。塵と取り取る最後のつめが甘い。ところが、教室にはゴミがあまり落ちておらず、紙をまるめてのポイ捨てが減っている。 ○部活動生等の協力で早朝から学校が綺麗になっていることは素晴らしい。					
	2	2. 防災管理の徹底と、施設・設備の管理	1. 防災訓練の集合目標時間を7分とする。 2. 施設・設備の維持・管理に努める。	1. 避難までの職員の動き等を再考する。 2. 毎学期の「安全点検」実施により、安全で快適な環境作りを行う。また要望に応じ、清掃用具の補充を迅速に行う。 3. 地震・津波と火災による防災計画と訓練を実施し、非常時に迷わず行動できるようにする。	3.1	3	3.2	3.1	●地震・津波避難訓練について、アンケート、部会反省でもいろいろ工夫点が出た。津波が風化しかけていることもあるので、今年もLHR後の避難だったが、教室にいない時間帯の避難や、実際に舞鶴公園へ避難する案も部会で出た。 ○津波・地震の講習会(DVD)は、やはり年に1回はやる必要がある。また学校が避難場所として適さない場合の非常時に対応した防災計画を作成する。 ○2学期の避難訓練では防災の意識を高めるために事前・事後の備えについての話をを行った。 ○毎学期行っている安全点検をし、施設の不備や破損箇所などの修理をした。					
	3	3. 健康安全教育の推進	1. 危機管理体制の充実 2. 健康管理能力を育む 3. 心の健康の充実	1. 行事毎に健康調査・健康相談を実施する。 2. 要管理生徒の指導の徹底と情報の共有化。 3. 救急法の職員研修。 4. 来室時の個別指導。 5. 「ほけんだより」や掲示物等による啓発活動。 6. 教育相談部・担任・関係職員等との連携。	3	3	3	3.0	○昨年度からの課題であった、健康診断の治療勧告書の見直しは職員の協力もあり行えた。 ○水泳・体育大会前等の行事毎に健康調査・相談を実施し、その結果を職員に返すことで共通理解を図った。 ●健康診断の実施時期、実施方法について、より円滑に行えるよう今後検討していく。 ○救急法については職員の協力もあり、具体的な内容を研修することができた。 ●過呼吸など変化する応急処置の対応について啓発活動に努める。 ●保健室内での生徒対応、連携は実施できているが、教育相談・担任・関係職員との連携をもっと迅速に行えるようにする。					

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する														
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科		
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)		○		○	○			○		○	○	○	○	○		
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)			○		○	○	○				○	○	○	○		
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○		
分掌学年	重点目標との関連	評価項目(目標)	評価指標・数値目標(手段・ゴールイメージ)					方策・手立て(具体的取り組み)			前期評価	中期評価	後期評価	総括	10月までの成果と課題(○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)※未実施項目については、評価しなくて良い。	
教育相談部	2 3	1. 速やかな対応	1. 学年会・保健室からの情報収集 2. 全職員の共通を図るための情報提供					1. 校内で情報を共有し、中学校や他機関との連携を図る。			3	3	3	3.0	○今年から教育相談室が保健室の隣になったことで、情報の共有が密に行え早期対応ができた。 ○担当と主任が各学年会に出席して情報を収集し共有することができた。 ○若者サポートステーションのカウンセラーの方と生徒・保護者の面談を定期的実施したことは有意義だった。 ○アンケートや調査を計画的に実施して実態把握に努め、学年会を中心に対応していくことで問題の早期解決を図った。 ●ケース会議の時間がなかなかとれないが、短時間でも必要に応じて実施していきたい。	
	2 3	2. 生徒・保護者・職員 の支援	1. 生徒・保護者へのPR活動 2. 教育相談室の環境整備 3. 教育相談週間の実施と活用、学級担任・教科担任・部顧問および保護者との連携					1. 教育相談室を活用する。 2. 教育相談週間を実施する。 3. 時機ををたらした支援を行い、全職員の共通理解を目指す。			3	3	3	3.0	○教育相談日誌をつけることで記録と情報の共有ができた。 ○教育相談週間の面談希望調査では、先生方に面談をしていただいて生徒たちは安心できたようだ。 ○教育相談室登校の生徒たちが教室に復帰することができた。 ●生徒だけでなく、情報の整理などを行い職員も利用できる場所にしていきたい。	
	2 3	3. 生徒支援内容の向上	1. 部会において情報交換や事例研究を行い、適切な支援を組織する 2. 全職員を対象にした研修会の企画 3. 職員の個人研修の資料提供					1. 教育相談関係の職員研修会を実施する。 2. 関係職員・保護者・外部機関との連携を図る。 3. 月刊誌『学校教育相談』を活用する。			3	2.7	2.7	3.0	○計画していた職員研修会は予定通り実施できた。教育相談関係の出張・研修等に積極的に参加した。 ●問題を抱えた生徒が増えている。職員の共通理解と専門機関とのより一層の連携が必要である。	
	1 2	4. 人権教育の推進	1. 統一LHRの計画 2. 職員研修会の企画 3. ピア・サポート活動について研究する					1. 統一LHRの内容を検討し実施する。 2. 職員研修会を実施する。 3. 研修会等へ参加する。			3.5	3	3.5	4.0	○統一LHRは計画通りに実施できた。1年生はじめや同和教育に関する講演を受け、人権に対する意識の向上が見られた。専門の講師のお話をいただく方が生徒の興味関心も高まるようだ。 ●LHRの授業内容に関しては、生徒の特性や学年の要望に合わせて時宜を得た指導の在り方を考えていきたい。	
渉外厚生部	1	1. 生徒の進路目標設定、研修の実施、参加促進	1 わくわく講座の講師を多方面より12名確保する 2 PTA視察研修には30名以上参加					1 わくわく講座を進路指導部と協力して実施する 2 PTA視察研修を実施する					3	3	3.0	1は、今年も好評だった。進路指導部の先生方に感謝。 2については、○内容的には支持されている ●参加者は20名。減少傾向 時期を変えても変わらなかった。
	2 4	2. 学校美化への取り組みと学校行事の推進	1 PTA奉仕作業には生徒・保護者・職員が合計100名参加する 2 売店バザーについては、時間、場所等の検討が必要					1 PTA奉仕作業を実施する 2 PTA売店委員会による食物販売を実施する					3		3.0	1. ○多数の参加をいただき、校内環境整備に多大な貢献 2 ○天候の影響で、食物バザーと分離できたことは良かった。来年も継続の見通し。評価は2学期のみ
	3 4	3. 職員・保護者の研修の機会設定	1 保護者への情報提供として、全校集会やPTA新聞を活用する 2 支部研修会では、合同実施等をすることで、保護者がより参加しやすくする					1 全国、九州、県、地区高P連主催の大会に参加し、情報を保護者に還元する 2 支部研修会を実施する			4	3		3.5	1. ○九州大会は宮崎実施のため、県大会を兼ねる形で、理事の協力を得られた。 ●全国大会、九州大会の参加希望は少ない。地区高P連主催の大会の出席者も減少傾向にある 2 ○支部研修会は支部の任意実施にした昨年以來、実施しない支部もある。 ●地区高P連主催の大会を支部研修会に兼ねた支部が3つあったが、参加者は少なかった。	
	4	4. 職員・保護者の意思疎通と親睦の機会	1 理事会の打ち合わせを三役会という形で行う 2 ミニバレーの参加者数を把握する 3 生徒のためになる母親委員会の活動を工夫する					1 PTA総会・PTA理事会の実施 2 PTAレクレーション(ミニバレー)の実施 3 母親委員会・広報委員会の活動を援助する			3	4	3	3.3	1. ○ PTA総会・二次集会、第1回～第5回PTA理事会は予定通り実施できた。 2. ○ PTAレクレーションは、時間通りの運営で大いに盛り上がった。 3. ○ 母親委員会は、目だった活動はなかった。広報委員会は順調に活動した。	
	4	5. 保護者や生徒への情報提供	1 より適切で魅力ある新聞作成を模索する					1 広報委員会によるPTA新聞の作成・発行(年4回)			3	4	3	3.3	1. ○第1～4回まで年どおり発行できた。	

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する															
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科			
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)		○		○	○			○		○	○	○	○	○			
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)			○		○	○	○				○	○	○	○			
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○			
分掌学年	重点目標との関連	評価項目(目標)	評価指標・数値目標(手段・ゴールイメージ)					方策・手立て(具体的取り組み)			前期評価	中期評価	後期評価	総括	10月までの成果と課題(○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)※未実施項目については、評価しなくて良い。		
広報部	4	1. 生徒・保護者・地域社会の期待やニーズに的確に応えられるよう「広報活動」を積極的に展開する。	1. 児湯地区の全小中学校を積極的に訪問する。 2. PTA・OB会・塾やマスコミ等との連携を進める。特にマスコミの有効活用を図る。 3. 広報手段の創造・活用を図る。					1. 管内の全小中学校の訪問を行い、連携を進める。特に中学校については、4月中に児湯地区の全中学校を訪問する。 2. 学習塾講師からの情報収集に努める。 3. HP、広報紙「明倫」、マスコミ等の積極的活用を行う。特に、HPについては毎日更新する。 4. HPのアクセス数を増やす。					3	3	3.5	4.0	○HPを毎日更新しリンクを増やした結果アクセス数が増え続けた。(1日平均)5月:245回→9月:290回→10月:350回→1月:382回) (最高日:590) ○児湯管内の全中学校を4月中に訪問し、探究科学コースへの質問等にHPや高鍋便り「明倫」で応えた。 ○学校紹介パンフレット・ポスター・学校紹介DVDが刷新された。 ○PTAの活動をHPで紹介した。 ○マスコミの有効活用を行った。
	2	1. 小中学校や地域社会との連携を積極的に図る。	1. 小中高・地域社会と連携する企画や行事を取材し、積極的に広報する。					1. 地域の伝統行事に協力する高鍋高校を積極的に広報する。 2. 各種ボランティアに参加し貢献する高鍋高校生を紹介する 3. 児湯管内の小中高との連携事業を積極的に広報する。					2.5	3	3.5	4.0	○高鍋城灯籠まつりなどにボランティア参加した高鍋高校生をHP・高鍋便り「明倫」で広報した。 ○学力アップセミナーなど中高連携の行事をHP・高鍋便り「明倫」で広報した。 ○「出前授業」「作文教室」をHP・高鍋便り「明倫」で広報した。 ○「都農尾鈴マラソン大会」協力や「トイレ掃除研修」受け入れて、社会貢献をすると同時に広報活動を行った。
	4	3. 学校が一つにまとまった広報活動を展開し、「全職員が広報担当」という意識を高める。	1. 全職員が「師弟同行」の教育活動を展開し生徒の満足度を高める。 2. 日頃の教育活動の成果を広報部がとりまとめて積極的に外部に公表する。					1. 職員が率先垂範で生徒とともに活動する姿を広報活動で地域・保護者に紹介する。 2. 各部・学年の特徴ある魅力的な活動を広報部が集約し、外部に公表する。					3	3	3.5	3.5	○高鍋だより「明倫」・HP等を通じて、職員が率先垂範で生徒とともに活動する姿を地域・保護者に広報できた。 ○探究科学コースや生活情報科の活動をHPや高鍋便り「明倫」で広報できた。 ○情報収集の仕方やHP作成を通じて「全職員が広報担当」の意識を高めることができた。 ●各部・各学年との連携が徐々に進み、全職員の広報意識が高まってきたが、改善の余地がある。各部署に広報部に情報を提供する係(副主任が妥当)が設置できると情報収集がスムーズになる。
事務部	1	1. 教育課程に対応する計画的・効果的予算執行	1. 県の予算執行方針に基づく効率的執行を行う。 2. 私費予算の負担軽減に努める。					1. 必要性・重要性を判断基準とした予算執行に努める。 2. 物品購入、旅費の年間計画を作成する。 3. 「経費節約の指針」に基づく支出に努め経費削減を図る。 4. 私費については生徒へ直接還元できるものについて予算執行を行う。					3	3	3	3.5	○全般的におおむね計画どおり予算の執行ができた。 ○度重なる漏水修理に取り組んだことで、水道使用量が23年度までの通常の水準にもどり、その分消耗物品等の購入に回せた。 26年度も、省エネに取り組みながら、予算の効果的執行に努めていきたい。
	2	2. 学習環境の整備の推進	1. 安全第一の視点から事故防止に取り組む。 2. 生徒及び来校者等に気持ちよい環境整備を行う。					1. 施設の老朽化を鑑み、定期的な校内巡視を行い緊急性を見極め営繕に努める。 2. 環境整備の職員と連携を密にし、除草や剪定及び樹木消毒等を実施する。					3	3	3	3.5	○施設設備の修繕は、可能な限り対応した。施設老朽化による修繕が増加しているように感じるが、その都度有効な手立てをとって、学習環境の整備に取り組むことができた。26年度も同様に取り組みたい。 ○環境整備の日々雇用職員がよく動いてくれ、校内の除草や剪定が着々と行われた25年度であった。26年度も同様に環境整備がはかれるとよいと思っている。
	4	3. 事務分掌の明確化と責任体制の確立、事務能率の向上	1. 学校の窓口として丁寧に対応する。 2. 各部・各教科等との連携を図り適正な事務処理を行う。 3. 事務処理能力の向上を図る。					1. 事務室は学校の顔という意識を強く持ち来校者等が気持ちよくなるよう接遇技術の向上に努める。 2. 連絡・相談・報告を徹底しチェック機能を向上させる。 3. 自身の資質向上に努めるとともにOJTを活性化させ、事務職員としての能力向上に努める。					3	3	3	3.5	△学校の窓口として、丁寧に対応するために、事前の情報提供がもう少し欲しい。 ●電話対応をする際のごまめな確認や心配りが足りなかったと思うことがあった。 ●電話の対応は毎回特定の人とがとるのではなく、一人ひとりが意識してとれるのがベストだと思う。 このことを踏まえて、事務室内の意識体制の改善、他部署職員との「ほう・れん・そう」体制の改善を図り、26年度新たな気持ちと心構えで取り組んでいきたい。

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する													
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科	
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)		○		○	○			○		○	○	○	○	○	
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)			○		○	○	○				○	○	○	○	
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	
分掌学年	重点目標との関連	評価項目(目標)	評価指標・数値目標(手段・ゴールイメージ)		方策・手立て(具体的取り組み)				前期評価	中期評価	後期評価	総括	10月までの成果と課題(○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)※未実施項目については、評価しなくて良い。		
1 学 年	1	1. 主体的学習習慣の確立 授業・課題・宅習への確実な取り組みと基礎学力の定着	1. 基礎学力の定着 2. 自学自習力の向上(宅習時間3h) 3. 1年全員での進級		1. 「授業が勝負」の徹底 2. 課題・小テストの指導の徹底 3. 生活の記録指導 4. 休日・空き時間の有効活用指導				2.5	2.9	2.9	2.9	○授業態度は落ち着いてきた。進研模試でも回を追うごとに少しずつでも上昇傾向がみられる。今後も生徒があきらめずに努力していくように注意したい。 ○課題として渡したプリント類の解説を徹底させた。 ●自分の頭で考え、主体的に学習するという学習方法が確立していない者がいる。 △課題・小テスト等に向けてきちんとやる者、やらない者の差が大きい。 ○生活の記録を通じて生徒の実態把握、適切な声かけ・指導ができた。生徒とのコミュニケーションの一助であった。 ○担任間で生徒情報を交換を密にし、タイミング良く指導ができた。 ●空き時間の活用はよくなったようだが、休日の時間の指導が行き届かなかった。テスト前の時間も有効に使えない者がいた。次年度への課題である。		
	2	2. 挨拶・容儀・清掃活動を通しての集中・機敏な活動、基本的生活習慣の確立	1. 常時の生徒指導 2. 環境美化 3. 欠席・遅刻・早退・特別指導 ○		1. 容儀・挨拶・ルール厳守等の常時指導 2. 師弟同行(清掃指導) 3. 保護者、生徒指導部との密な連携 4. 学年集会の有効活用				2.7	3	3	3.1	○挨拶は良く、大きな問題行動は見られなかった。 △落ち着いた生活態度になってきたが、言われないとできないレベルの生徒もいる。容儀指導への徹底した常時指導が必要である。 ●清掃の取り組みが遅く、時間いっぱい集中しきれない生徒もいる。 △清掃時間外でも、教室の整理整頓に努め学習環境を整えるよう声掛けをしている。 ○保護者へ随時電話や面談等で、生徒の良かったこと、指導したこと等を随時連絡し密な連携を取った。 △教師がリードするとよくできるが、生徒に任せるとまだ不十分な取り組みをする。生徒に主体的に関わらせる工夫、段取りが必要。		
	1	3. 模試や講演会への取り組み、進路意識の向上	1. 自己理解・進路理解の促進 2. 進路目標の早期設定 3. 各種模試の活用		1. キャリア教育 2. 面談(2者・3者) 3. コンソーシアム宮崎 4. 模試前後の指導				2.4	3.1	2.9	3.0	○企業・大学視察・わくわく講座等を通じて、自分の将来を具体的に考え始めた生徒もいる。今後は、刺激を与える時期や方法、中身(学力)をつける時間とのバランスを考えたい。 △学校(キャリア・進路)主導なので、生徒自体で主体的に活動する場面を今後増やしたい(2年次への課題)。 ○2者・3者面談を夏休み、LHR等で適宜実施した。(時間確保が難しい) ●まだ、与えられる情報をわがものとして使い切らない生徒がいるので、根気強く語り掛けていく必要がある。 ○模試前後に対策をしたり、面談等を行い、学力的にもメンタル的にもサポートができた。		
	2	4. 文武両道の推進	1. 部活動への参加 2. 学校行事への参加 3. 各種ボランティアへの参加		1. 「文武両道」を目指し、部顧問と連携 2. 学校行事での自分たちの役割の自覚・積極的参加 3. ボランティア活動呼びかけ				2.3	3	3	3.5	△部活動が学校生活の支えになっている生徒も多い。部活動も勉強も真剣に取り組める集団を目指したい。 ○部顧問と随時成績や生活面についての情報交換をし、連携を取って指導ができた。 ○鳴海ヶ丘祭等、学校行事への取り組みはよかった。先輩を見習って今後も活躍して欲しい。 ○各種ボランティアやチューターへの積極的参加を促し、多くの生徒が参加できた。		

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する													
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科	
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)		○		○	○			○		○	○	○	○	○	
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)			○		○	○	○				○	○	○	○	
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	
分掌学年	重点目標との関連	評価項目(目標)	評価指標・数値目標(手段・ゴールイメージ)		方策・手立て(具体的取り組み)			前期評価	中期評価	後期評価	総括	10月までの成果と課題(○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)※未実施項目については、評価しなくて良い。			
2 学年	1	1. 主体的学習習慣の確立と基礎・基本的学力の更なる向上	1. 自宅学習時間の確保(文理3h, 総合生情2h) 2. 自学自習力の向上 3. 定期テスト欠点保有者前年比減		1. 「授業で勝負する」意識づけの徹底。すきま時間の活用促進。 2. 生活の記録の活用や学習会等の実施 3. 教科担任による上位者、下位者対策や学力に応じた課題の配布 4. 課題・小テストの指導の徹底			2.6	2.5	2.8	2.7	○生活の記録を通じて生徒の実態把握、適切な声かけ・指導ができた。生活の記録の冊子はぜひ来年度も継続してほしい。 ○担任間で生徒情報を交換を密にし、タイミング良く指導ができた。 ○テスト前の集中力は素晴らしいものがある。普段の取り組みをもう少し強化できればさらに学力がつくのでは。 ○ポキャブラリーコンテストを実施し、基礎・基本の定着を図ることができた。 ●成績上位者に対する継続的な個別指導と成績下位者に対する定期テスト直前における個別指導を組織化できないか。 ●進研の結果も踏まえて、理社も国英のようなコンテストを入れてもよいのではないか。			
	2	2. 基本的生活習慣の確立と自主性・積極性の更なる育成	1. 常日頃からの生徒指導 2. 欠席・遅刻者、特別指導前年比減 3. 学習環境の美化への取り組み		1. 服装容儀・挨拶、交通ルール順守等の常時指導 2. 学年集会の定例化、生徒による運営・進行 3. 保護者や生徒指導部との連携強化 4. 師弟同行による清掃活動			3	3.1	3.2	2.9	○遅刻指導、容儀指導は常時指導によりほぼ定着している。 ●修学旅行明けに欠席者が増加し、固定化したことは残念であった。 ●教室美化を学年として統一事項を決めて徹底すべきである。ロッカーの整理もできていない生徒がいる。 ●言われたらできるか、言われないと気がつかないし行動できない。自分で考えて行動できる力を養う必要がある。 ●学年集会を定例化できなかった。			
	3	3. 自己の進路目標の具体的な設定と2年後を見据えた準備	1. オープンキャンパス等への全員参加 2. 定期的な面談の実施 3. キャリア教育の充実(就労体験・職業観の育成) 4. 小論文指導、読書活動の充実		1. 九大、熊大、鹿大、看護大などオープンキャンパス参加促進 2. 二者面談、三者面談実施とその時間的確保 3. インターンシップ実施とその協力(206.207) 4. 修学旅行におけるキャリア教育の実施 5. 朝の10分間読書や明倫の時間の活用			3.1	3.3	3.4	2.9	○継続的に二者面談を行い、来年度の進路目標を固めることができた。 ●朝の読書は学年全体としてあり方を考えるべきである。クラスによって取り組みに差がある。 ●早目に学年として生徒個人個人の進路戦略を立て、推薦入試の準備に入るべき。 ●修学旅行におけるキャリア教育については改善が必要である。			
	4	4. 中堅学年として、諸活動への主体的な取り組み推進	1. 部活動への積極的参加 2. 文化祭など各種行事への参加 3. 各種ボランティアへの参加		1. 文武両道実現のため全職員と共通理解、連携 2. 学校行事への積極的な取り組み奨励 3. 学友団活動への自主的な取り組み 4. 校内外ボランティア活動参加の奨励			3	3.4	3.5	3.3	○部活動やボランティア活動(チューターや尾鈴マラソン)に意欲的に取り組む生徒が多い。 ●両立のキーは自宅学習と課題点検にあることを生徒・職員ともに自覚する必要がある。 ●文武両道実現のためには、生徒自身の更なる努力が必要であるし、学校側の環境作りも必要となってくる。			

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する												
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)		○		○	○			○		○	○	○	○	○
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)			○		○	○	○				○	○	○	○
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○
分掌学年	重点目標との関連	評価項目(目標)	評価指標・数値目標(手段・ゴールイメージ)	方策・手立て(具体的取り組み)			前期評価	中期評価	後期評価	総括	10月までの成果と課題(○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)※未実施項目については、評価しなくて良い。			
3 学 年	1	1. 主体的学習習慣の確立 進路目標達成できる 学力の確立	1. 基礎学力の定着 2. 自学自習力の向上 3. 3年生全員の卒業	1. 「授業で勝負」することの意識の徹底 2. 個別指導の充実(上位・下位) 3. 学習会・自宅学習調査を実施 4. 課題・小テストの指導の徹底 5. 休日・空き時間の有効活用指導	2.7	3	3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○授業への取り組み状況も特に問題なく、自習時間も静かに課題に取り組んでいた。 ○上位層への個別添削指導については、年間を通して行き届いた細かな指導を行うことができた。 ●逆に、下位層への手立ての工夫がもう少し必要であった。 ○鳴海ヶ丘祭後(9/14,15)に農業大学校で学習合宿を実施した(77名参加) ●自宅学習の習慣化が身につけていない生徒への対応に苦慮した。 ● 娯楽時間(テレビや携帯・スマホなど)を少しでも勉強に充てる対策はないのか? ●休日や授業日の空き時間(スキマ時間)の使い方を指導する必要があった。 					
	2	2. 基本的生活習慣の確立	1. 常時の生徒指導 2. 学習環境美化 3. 遅刻・欠席/特別指導前年比減	1. 容儀面、挨拶、ルールを守る(交通・校内)等の常時指導 2. 師弟同行→自主的な清掃活動 3. 保護者・生徒指導部・教育相談部との密な連携 4. 学年集会の有効活用	3	2.7	2.7	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ○服装容儀面は全般的には良好であった。挨拶やマナーの良い生徒が多かった。 ○3年間皆勤賞の生徒は39名おり、基本的生活習慣が確立している生徒が多かった。 △清掃についてはゴミステーション担当など意欲的に取り組んでいる所もあれば、取りかかりが遅く自主的な活動に至っていない所もあった。 ●駐輪場での無施錠(二重ロックされていない)自転車が目立った。(校内駐輪場・高鍋駅駐輪場) ●鳴海ヶ丘祭後の気持ちの切替えが上手くできず、指導を受けた生徒が数名いた。 					
	1 4	3. 生徒の進路実現	1. 3年生全員の進路目標達成 2. 国公立大学50名以上の合格 3. 就職率100%達成	1. 各種入試の研究・対策 2. 対外模試の事前・事後指導の充実 3. 小論・面接指導の充実 4. 二者・三者面談の実施 5. 就職希望者への支援充実	3	3	3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○推薦入試に向け、全職員一丸となって小論文や口頭試問、集団討論、面接等の対策をしていただいた。多忙な中にも関わらず熱心なご指導、本当にありがとうございました。 ○就職担当の先生方が生徒の志望状況をもとに、企業等に積極的な進路開拓を行っていただいた。その結果、就職希望生徒については100%の内定率であった。 ○今年度から夕課外を講座制にして、難関・標準・基礎コースなど生徒の進路志望や実情に応じて実施できたのは良かった。 ●8月上旬から推薦委員会を行ったが、生徒の動きが遅く志望理由書の作成から手が掛かり、準備時間が不足した生徒も多かった。 ●生徒の進路志望が多様化している現状において、進路情報等の情報提供や情報交換が必要である。 					
	3	4. 最高学年としての主体的取り組み推進	1. 部活動への積極的参加 2. 鳴海ヶ丘祭の成功 3. 各種ボランティアへの参加	1. 「文武両道」を目指し、部顧問と連携強化 2. 学校行事への主体的・中心的な取り組み 3. 校内外のボランティア活動への主体的参加	3	3.5	3.3	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○高校総体を中心に各部活動で生徒達が活躍する場を多く見る事ができた。部顧問の先生方の熱心なご指導に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。 ○歓迎遠足や合格者オリエンテーションなど、生徒会執行部・チューターを中心に意欲的な取り組みで行事を盛り上げてくれた。 ○鳴海ヶ丘祭では3年生が中心となり各所で活躍し、素晴らしい文化祭・体育祭を作り上げ、後輩達への良い見本となった。 ○灯籠祭りのボランティアをはじめ、各種ボランティアへ積極的に参加する生徒が多かった。 					

評価方法		各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する													
重点項目との関連性		教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科	
1 知的行動人の育成(学力向上・進路実現)		○		○	○			○		○	○	○	○	○	
2 豊かな心の醸成(基本的生活習慣の確立)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 心身の鍛錬(文武両道の推進)			○		○	○	○				○	○	○	○	
4 保護者や地域に信頼される学校		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	
分掌学年	重点目標との関連	評価項目(目標)	評価指標・数値目標(手段・ゴールイメージ)		方策・手立て(具体的取り組み)			前期評価	中期評価	後期評価	総括	10月までの成果と課題(○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)※未実施項目については、評価しなくて良い。			
生活情報科	1	基礎学力の向上と専門科目における知識と技術の定着	1. 基礎基本の定着に向けての工夫改善・検定合格率上昇 2. きめ細かな進路指導・進路決定率100%		1. 火・木曜7限目の有効活用。(テスト前の全体的な指導や検定前の強化指導) 2. 学科全体で生徒の進路をバックアップ(学科での面接指導・情報交換)			3	3	3	3.0	△火・木の7限は、検定前の個別指導や面談等で有効活用できているが、専門科目における生徒のさらなる技術力向上のため取り組んでいきたい。 ○専門科目をできるだけT・Tで実施し、以前よりも一人ひとりに目が行き届いている。 ○今年度より教科会で生徒状況を情報交換する場を設定し、学科の職員で共通理解を図ることができている。 ○生徒の進路に向け、進路指導部や管理職の先生方にも協力をいただき、学科全体で面接等の指導を行った。進路決定率100%。 ●進路先について、今後も生徒・保護者・職員の連携を密にしていきたい。 ●基礎基本の定着のため、教科担任や部顧問とさらに連携して指導していきたい。			
	2 3	素直で誰からも好感を持たれる生徒の育成	1. マナー指導の充実 2. ボランティア活動への積極的参加		1. 常時対応できるマナーの指導 2. 地域行事・ボランティアへの積極的参加			3	3.2	3.2	3.5	○家庭クラブが中心となって、幼稚園での読み聞かせや運動会サポート、高鍋町のイベントなど様々なボランティアに積極的に参加し地域からの期待も大きい。募キャップや難民キャンプへ絵本を送る活動など新たな取り組みも増えている。 △明るく元気な生徒が多い。さらに、けじめのある生活が送れるよう、マナーについても常時指導を行っていきたい。			
	2 3	生徒の自主性・積極性の育成	1. 学校行事への積極的参加 2. 定期的、持続的な食育活動の実施(年2回の弁当コンクール)		1. 生徒の主体性や積極性を養う機会の設定 2. 鳴海ヶ丘祭の内容再考・改善 3. 学科集会の実施 4. 弁当コンクールの更なる工夫改善			3	3.2	3.3	3.5	○鳴海ヶ丘祭は生活情報科の展示を新たに設け、ファッションショーも昨年までの反省を元に改善した。生徒たちは、互いに協力しながら一生懸命に取り組んだ。 ●いろいろな場面で生徒が自ら考え主体的に活動できるよう指導していきたい。 ○進路指導部と協力してインターンシップを実施し、生徒の主体性や積極性を養うことができた。実習先の評価も良好であった。 ○学科集会では、各学年の取り組みを発表する機会を設けることができよかった。 △弁当コンクールは参加する生徒も増えたが、コンクールの取り組みについて今後検討していく必要がある。			
	2 4	地域に信頼される学科	1. 学校説明会・オープンスクール・HP等における学科PR 2. 地域との連携強化		1. 学校説明会・オープンスクール・鳴海ヶ丘祭展示における学科の取り組み紹介 2. HPの随時更新 3. 地域人材招聘事業の内容充実			3.2	3.5	3.8	3.8	○HPは随時更新できている。また、広報誌「明倫」にも掲載し地域への発信を心がけている。 ○学校説明会・オープンスクールにおいては、学科の特色を示すことが出来た。 ○地域の方々のご協力により様々な講習会を実施することができており、生徒へ良い刺激となっている。(郷土料理・視覚障害者の方の講演、お茶の講習会など)今後、さらに連携を図っていきたい。			